



変わろう・変えよう・産業と暮らし

第3期高知県産業振興計画

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)

安芸地域抜粋版

平成28年●月

高 知 県

1 安芸地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

安芸地域は、海・山・川の恵まれた自然を活かし、古くから第一次産業を中心に営んできましたが、その衰退とともに人口減少が進み、昭和30年代半ばには10万人余であったものが、平成17年の国勢調査では58,340人、平成27年には48,329人（速報値）と、近年の10年間でも17.2%減少するという状況になっています。

さらに、将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所に準拠した国のまち・ひと・しごと創生本部事務局の推計によると、平成72年（2060年）には約19,000人にまで減少することが予想されています。

このため、安芸地域の各市町村ではそれぞれ人口ビジョンを策定し、平成72年の人口の目標値を定めるとともに、それを実現するための5年間の具体的な施策（雇用創出や移住促進等による人口増の取組）をまとめたまち・ひと・しごと創生総合戦略（平成31年度まで）を策定しています。

農業では、平野部はナスを中心とするハウス園芸地帯として、中山間地域は古くからのユズの産地として、それぞれ日本一の生産量を誇っています。ユズについては高齢化の進展に伴い管理作業が比較的容易な果汁出荷へ移行しています。平成24年度に始まった日本初のヨーロッパへの青果輸出は、以後毎年継続して行われており、ヨーロッパでの知名度が徐々に高まってきています。

林業では、森林率が89%と県下平均を上回っているものの、かつて「魚梁瀬杉」を中心とした優良で豊富な天然資源を背景に大いに栄えた林業・木材産業は、天然資源の減少や木材価格の長期低迷等により、情勢が極めて厳しい状況にあります。こうした中、近年では、「森の工場」の整備等により、間伐を中心とする施業の集約化・効率化を進めるとともに、皆伐を組み合わせることで、原木生産の拡大に取り組んでいます。また、木質ペレット燃料を生産する工場の整備や木質バイオマスボイラーの導入により、未利用材等の活用も進んでいます。

水産業では、資源の減少や魚価の低迷、燃油価格の高止まりによる漁業経費の増大など、取り巻く環境は厳しさを増しており、担い手の減少に拍車をかけています。このような中、第2期計画では、釣り漁業の水揚げの大半を占めるキンメダイについて、関西市場を中心とした消費拡大や販売促進に取り組んだ結果、高級食材としての認知度が定着し、魚価の向上につながりました。また、安芸市で盛んなイワシシラス漁業については、新たにシラス干しの加工施設を整備し処理能力の増強を図ったところ、好漁だったこともあり水揚げ高が増加しました。さらに、加工施設において20人近くの雇用が新たに創出されるなどの成果がみられました。今後は、地域の基幹漁業の一つである定置網漁業なども含めた販売促進や付加価値向上等の取組の進展が期待されます。

商工業では、「海の駅東洋町」や「キラメッセ室戸 楽市」の加工施設を整備する等、地元の農産物や魚の販路拡大等を目指した取り組みを進めた結果、「海の駅東洋町」には、約157,000人（平成26年度実績）、「キラメッセ室戸 楽市」の加工施設にはオープン（平成27年8月）から4カ月で約12,000人の来客数があり、様々な課題を抱えながらも一定の成

果が出ています。

観光では、圏内には自然や歴史、文化遺産などの多彩な魅力をもった観光資源があります。しかし、交通面では幹線道路が単線で2次交通の整備も進んでいないことや、圏域内の宿泊キャパシティが少ないことなどから、通過型旅行が中心の地域となっています。

一方で、平成27年度に開催された東部地域博覧会を契機として、新たな地域資源の掘り起こしも進み、民間事業者と行政の連携も強化されました。そして、この流れを引き継ぐ体制の整備も進み、広域観光を推進する素地ができつつあります。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、各市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の取組と歩調を合わせて、第一次産業の振興に向けた生産・加工体制等の充実・強化や、販路の拡大の取組を継続するとともに、地域の一次産品等を活用した加工品づくりや、道の駅・直販所における機能の強化にも引き続き取り組むこととしています。

農業分野では、ユズの青果出荷の拡大と品質の向上のための新植、改植を進めていくとともに、ユズ果汁等の安定供給と販路拡大を図っていくこととしています。

林業分野では、高級品として紀州産と並び称される土佐備長炭については、後継者の育成や生産施設の整備が進んだことから生産量は伸びており、さらなる飛躍が期待されます。今後も引き続き、生産体制の拡充に取り組むこととしています。また、木材加工品の販売についても、設計士と連携した卸別販売や消費者ニーズに合った木製品の開発などに取り組むこととしています。

水産業分野では、地域への波及効果の大きい定置網漁業の漁獲物を中心に、鮮度を売りにした付加価値向上や民間企業との連携による販売促進に取り組むとともに、イワシシラスについては平成24年度に整備した加工施設を活用し、特産品としての認知度を高め、漁業所得の向上や地域への経済効果に繋げていきます。

商工業分野では、新たに、有害鳥獣（イノシシ、シカなど）を活用した商品開発と販路開拓に取り組むほか、引き続き天日塩などの地域資源を活かした農商工連携による加工品開発や販路の拡大、道の駅や農産物直販所などの情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取組を進めることとしています。

観光分野では、東部地域博覧会で蓄積された広域でのイベント開催や広報、誘客活動などの実績（ノウハウ）を将来に引き継ぐため、東部地域が一体となった広域観光組織を立ち上げることとしています。また、東部地域博覧会の成果を継続させるために、世界認定された「室戸ジオパーク」や、「魚梁瀬森林鉄道遺産」、北川村「モネの庭」マルモッタンなどの観光資源や道の駅等の直販施設を核として、地域間の連携を深め、それぞれの地域の観光資源を組み合わせた周遊型の旅行商品の開発により1泊以上滞在できる地域づくりを目指すとともに、地域での受入体制の充実や東部博覧会を契機として数多く開発された体験プログラムのブラッシュアップを行うことにより、リピーターの増加による交流人口の拡大を図り、地域への経済効果を高める取組を進めていきます。

(3) 地域産業クラスターの展開

地域に持続的な雇用とより大きな経済波及効果をもたらすため、地域アクションプランの取り組みを通して、地域産業クラスターの創出に取り組みます。

○奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター

ア) 関連する地域AP

No.13 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進

No.27 奈半利ブランドの確立と販路の拡大

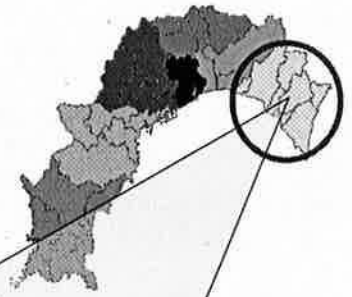
イ) 内容

奈半利町に新たに立ち上げる集落活動センターを拠点として、ふるさと納税制度の返礼品として寄付者に送る商品を開発し、地産外商に取り組むことにより、奈半利ブランドを確立していきます。あわせて、観光や移住の窓口として情報発信に取り組むほか、農機具の貸出等によって一次産業を地域で支える仕組みづくりを行う等、様々な取組を推進していくことにより、人口減少に立ち向かっていきます。

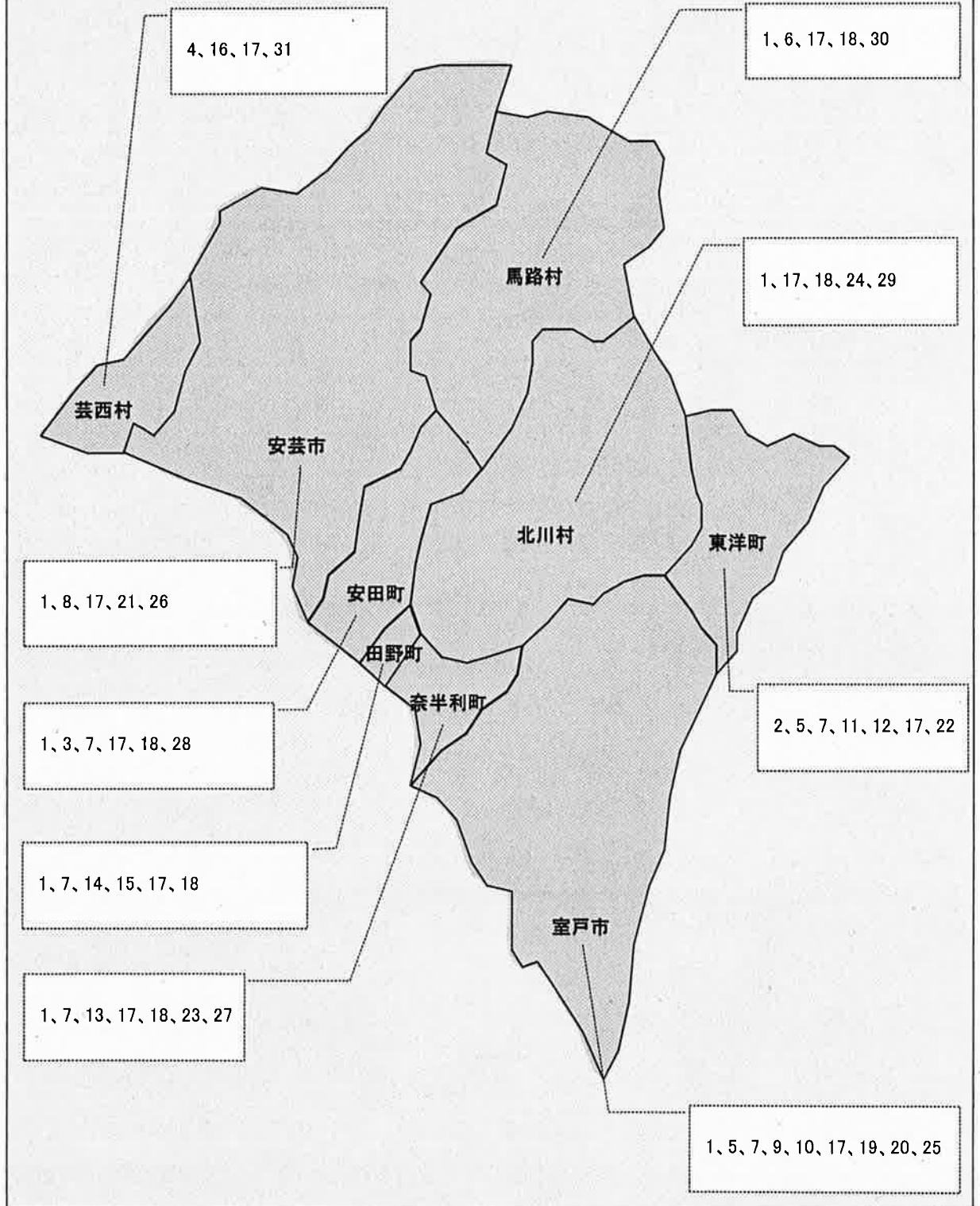
(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
ユズの加工仕向量	H26 : 4,489 t	H31 : 5,000 t
土佐備長炭の出荷量	H26 : 1,076 t	H31 : 1,580 t
圏内主要施設訪問者数 <注1>	H27 : 2,401,821人	H31 : 2,606,000人
圏内宿泊者数 ※県旅館ホテル生活衛生同業組合調べ	H27 : 138,229人	H31 : 150,000人

注1 : 室戸世界ジオパークセンター、キラメッセ室戸(鯨館)、北川村「モネの庭」マルモッタン、中岡慎太郎館、安芸市立書道美術館、安芸市歴史民俗資料館、内原野陶芸館、安芸こころざし社中等安芸地域9市町村内の観光施設、体験プログラム、直販施設及びイベント集客数



【安芸地域】



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
1 ユズを中心とした中山間振興 《室戸市、安芸市、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》	日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。	・JA土佐あき ・JA馬路村	アクションプランの取組開始：H21 [JA土佐あき] ・新植、改植の推進への取組（H21～27） ◆県選抜系統を活用した母樹園が設置された（H22） ◆母樹園の優良系統樹から種木を採取し、苗木業者での育苗が開始された（H27） ・果汁の販売対策として計画的な施設整備（北川村：H21：搾汁施設、H24：果汁殺菌設備）、JA内に販売対策チームの設立（H24） ◆EU向けに青果輸出に取り組み始めた（H24：3t、H25：3t、H26：3t、H27：4t） ◆H24から実施している消費者との交流イベント（収穫祭、料理コンテスト）により、ユズのPRIに繋がっている。 [JA馬路村] ・ユズ茶（H21）、化粧品（H22）及びアルミ缶対応ドリンク充填ライン（H26）の加工施設の導入 ◆加工品の販売実績が増加した。 ◆販売拡大に向けて新商品開発が進み、販売に至った（H24：シャーベット2種、ポン酢1種、H25：化粧品3種、ポン酢1種、H26：化粧品2種、調味料3種、H27：化粧品1種、清涼飲料水2種） ◆H18から実施している消費者との交流イベント（ゆずはじまる祭）により、ユズ及びユズ関連商品のPRIに繋がっている。	・[JA土佐あき] ・青果出荷へのシフト ・隔年結果及び品質低下対策 ・母樹園を活用した優良系統の普及 [JA馬路村] ・加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上	◆新植、改植の推進 [JA土佐あき] ◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓
2 ポンカン加工品開発と後継者確保による地域振興 《東洋町》	東洋町の特産品であるポンカンを活用した加工品の開発をすすめるとともに、移住・定住の促進による後継者の確保に取り組むことにより地域振興を図る。	・ポンカン生産者 ・甲浦の果樹仲間 ・東洋町	アクションプランの取組開始：H24 ・ポンカンを活用した商品の開発（H22） ・ポンカンドリンクのチラシ作成（H24） ・関西方面での営業活動（H24～27） ◆業務用酒販や飲食店などの新規取引が成立し、既存商品の販路拡大は徐々にすすんできた。 販売数 [H22] 1,807本 (ドリンク1,112、ドレッシング695) [H23] 1,764本 (ドリンク1,239、ドレッシング525) [H24] 2,802本 (ドリンク2,133、ドレッシング469) [H25] 2,454本 (ドリンク2,122、ドレッシング332) [H26] 3,584本 (ドリンク2,520、ドレッシング1,064)	・ポンカンを活用した新商品開発と販路拡大 ・後継者の確保	◆ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大 ◆後継者の確保

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
新植、改植の推進（青果の生産拡大と品質向上、計画的販売の強化）					青果出荷受入量(1月～12月) (H22:297t) (H23:370t) (H25:398t) (H26:449t)	
検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底						
産地内の母樹を活用した苗木確保		産地内の母樹苗木を活用した計画的な新植・改植の推進				
ユズを活用した中山間振興策の検討						
ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓					JA土佐あき加工仕向量(1月～12月) (H22:4,250t) (H26:4,489t)	
[JA土佐あき] ・栽培基本技術向上による加工用果皮の出荷拡大と隔年結果の是正による果汁の安定供給 ・大手飲料メーカー等との契約による販売の安定化 ・果汁一元化販売の取組による安定した果汁単価の維持 ・ユズ協業との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出版売の拡大(シンガポール、北米、EU等)						
[JA馬路村] 各施設を活用した加工品生産、加工品開発及び販売拡大への取組					JA馬路村加工品販売額(1月～12月) (H21:32億円) (H26:32億円)	
ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大					商品数 (H22 2アイテム) (H26 2アイテム)	
新規加工グループの掘り起こし		試作品の作成			5,000本	
既存商品の磨き上げ		新商品の検討			既存商品の販売数(1月～12月) (H22:1,807本) (H26:3,584本)	
販売促進活動						
後継者の確保						
移住・定住の促進による後継者の確保						
新規就農者の支援						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
3 やすだ資源を活かした6次産業化事業の推進 【安田町】	安田町内の地域資源を活かした6次産業化事業を実施し、新商品開発・販路開拓・拡大生産に取り組む。また、マンゴー大福「安田の白い夢」の販路拡大に向け、大都市圏を中心とした販売促進活動に取り組む。これらの取組により安定かつ継続した雇用の創出を目指す。	安田町 生産者 製造販売者	アクションプランの取組開始(H24) ・製造販売拠点「安田(あんた)と夢ファクトリー『キララ』」施設整備(H23)、開業(H24) ・高知龍馬空港でのキャンペーンの展開(H24) ・JAL離か四国キャンペーンとのタイアップ(H25) ・県外百貨店での高知フェアに出展(H25:銀座三越4月、大阪高島屋5月) ・まるごと高知の報告会・商談会へ参加(H24) ・まるごと高知での安田町フェアの実施(H28) ◆ニッポン全国物産展ご当地おやつランキング5位入賞(H25)、2位受賞(H27) ・東部博関連イベント等での販売活動の実施(H27) ・年間製造量:34,000個(H26) ◆H24に「安田と夢ファクトリー『キララ』」を整備し、生産販売拠点ができ、一定雇用は確保しているが、大都市圏での安定した販路の確保には至っていない。	・6次産業化のための加工に適した作物の選定 ・6次産業化の担い手となる人材の確保 ・導入した製造機械での「安田の白い夢」の本格生産に向けた新たな販路開拓 ・「安田の白い夢」の認知度向上に向けた販売促進活動の継続した取組	◆地域資源を活かした6次産業化事業の推進 ◆「安田の白い夢」の販路の開拓
4 白下糖の生産拡大と新商品の開発 【芸西村】	伝統ある芸西村の白下糖の生産を拡大し、白下糖を活用した新商品を開発・販売することにより、白下糖のブランド化を図り、認知度の向上を目指す。	芸西村 芸西村製糖組合 生産者グループ	アクションプランの取組開始:H24 ・生産者アンケート調査実施(H24、圃場確認・栽培継続の可否) ・脱糞機導入(H25) ・伝承館改修(製糖体験スペース増築)(H28) ・土壌検査の実施(化学性)(H26) ・栽培層の作成(H26) ・栽培層に沿ったサトウキビの試験的栽培(H27) ・サトウキビ買取りの試験的実施(H27) ・土壌検査(物理性)(H27) ・体験メニューの実施(H27) ◆保冷庫を導入したことにより白下糖の品質保持及び年間を通じた販売が可能となった。	・後継者の育成 ・品質の統一化 ・白下糖を活用した新商品の開発 ・販売先の拡大 ・体験メニューの検証と磨き上げ	◆技術を継承する人材の育成 ◆白下糖の生産量の拡大 ◆白下糖の品質向上 ◆白下糖の販路拡大 ◆新商品の開発 ◆体験メニューの磨き上げ

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
地域資源を活かした6次産業化事業の推進					起業者創出 企業誘致	1社 1企業
戦略構想計画の策定						
加工に適した作物の選定						
地域資源を活かした新たな加工品の開発、市場調査、販路開拓						
加工施設整備						
原料増産に向けた取組						
起業者創出、企業誘致に向けた取組						
「安田の白い夢」の販路の開拓						
大都市圏を中心とした営業活動の展開による販路の確保						
技術継承する人材の育成					サトウキビ収穫量 (H26:34t)	45t
人材の確保						
製造技術の習得、その他関連する研修等への参加						
白下糖の生産量の拡大						
遊休農地の有効活用・新規生産者の確保によるサトウキビ作付面積の拡大						
サトウキビの買取り実施						
白下糖の品質向上						
栽培層に沿った栽培						
栽培層の磨き上げ						
白下糖の販路拡大						
テストマーケティング						
商品の磨き上げ						
商談会や展示会への出展						
新商品の開発						
商品検討・試作						
試作商品テストマーケティング						
試作商品磨き上げ・商品化						
体験メニューの磨き上げ						
体験メニューの実施						
検証						
磨き上げ						
検証						
磨き上げ						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
5 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 《室戸市、東洋町》	土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図ることにより、産地としてのブランド力の向上を図る。	・室戸市木炭振興会 ・室戸木炭生産組合(仮称) ・土佐備長炭生産組合	アクションプランの取組開始:H21 [室戸市木炭振興会] ・組織化:H19設立 ・施設等整備(H21:研修窯2基、H22:研修窯1基) ・研修生の受入(H21:3人、H22:5人、H23:2人、H24:0人、H25:0人、H26:2人、H27:2人) ◆施設整備により、研修生の継続した受入につながっている。 [土佐備長炭生産組合] ・組織化:H21設立 ・施設等整備(H21:共同窯2基、H22:共同窯1基、保管庫1棟、H25:共同窯4基、フォークリフト1台) ◆施設整備により月産出荷能力(箱=12kg)が増加した。(H21:2,150箱、H22:3,425箱、H23:3,548箱、H24:3,670箱、H25:4,190箱、H26:3,630箱) ・研修生の受入(H21:3人、H22:2人、H23:2人、H24:0人、H25:2人、H26:1人、H27:2人) ・原木の一括購入と製品の一括出荷(H21~) ◆出荷量の拡大と品質の安定化につながっている。 ・末端利用者のニーズに対応して、製品規格を10種から19種へ拡大(H21~)	・担い手の育成 ・生産施設等の整備 ・原木の確保 ・経営の強化と安定化 ・ブランド力の向上	◆従事者の拡大 ◆生産施設の整備 ◆カシ類原木の活用 ◆大規模所有者からの原木調達 ◆組織力の強化 ◆新商品の開発 ◆生産拠点の拡大に向けた検討
6 林業加工品の販売の促進 《馬路村》	木材加工品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営安定を図る。	・(株)エコアス馬路村 ・馬路林材加工協同組合 ・馬路村森林組合	[(株)エコアス馬路村] アクションプランの取組開始:H21 ・モナック新バッグの商品化(H21) ・モナックの塗装の改良(H24) ・新商品Kutu-beraの開発(H25) ・国内外の展示会への出展(H21~) ・HPのリニューアルによる直販の強化(H25~) ◆商品開発、展示会・商談会への出展やHPの改良により営業面は善戦している。 [馬路村森林組合] ・骨董、子供用ベッドを新商品として開発(H22~) ・中期経営計画書の作成(H24~) ・丸棒削機1台、材乾燥機1基の導入(H25) ◆職員全員が経営者的感覚で今後の事業展開や組織運営を考えるようになってきた。また、機械導入により製品品質が向上した。	[(株)エコアス馬路村] [馬路林材加工協同組合] ・顧客の確保 [馬路村森林組合] ・小径木の加工場であるため付加価値のある製品の製造が困難 [全体] ・村内の人口減少により従事者の確保が困難	◆営業力の強化 [(株)エコアス馬路村] [馬路林材加工協同組合] ◆収益性の改善 [馬路村森林組合] ◆担い手の確保

	第3期計画					指標及び目標	
	H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
従事者の拡大						出荷量(H26:1,076t)	1,580t
						新規就労者数(H24~27 11名)	26名(H28~H31累計)
生産施設の整備						製炭窯設置(H24~26 増設7基)	21基(H28~H31累計)
カシ類原木の活用							
大規模所有者からの原木調達							
組織力の強化							
新商品の開発							
生産拠点の拡大に向けた検討							
営業力の強化						木製品出荷額(H22:233,000千円)(H26:251,910千円)	277,000千円
収益性の改善						加工部門雇用者数(H26:27人)	27人(現状維持)
担い手の確保							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
7 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大 《室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町》	芸東地域の水揚高の6割以上を占め地域経済への波及効果の大きい定置網の漁獲物を中心に、高鮮度化(神経メ等)や加工による高付加価値化、新たな販路の開拓による有利販売の取組を促進することにより、漁業所得の向上につなげる。	〔定置網漁獲物〕 ・室戸市定置漁業振興協議会 ・中芸定置網漁業振興協議会	アクションプランの取組開始:H21 ・キンメダイの冷凍フィレがサンプル出荷(H25)を経て、定番化 ・定置網漁獲物の簡易加工(イカ沖漬け)を試行(H26) ・大阪の量販店での宣伝販売の実施(H26) ・ハダカイワシ等、低利用魚の加工商品を製造販売(H26) ・定置網漁獲物の高鮮度処理(神経メ等)を試行(H27) ◆関西市場を中心にキンメダイのPRを行ってきた結果、高級食材としてのキンメダイの認知度が向上し魚価の上昇につながった。 また、キンメダイの冷凍フィレが業務筋から高い評価を受けるとともに、地域グルメのキンメ井の材料として定着し、販売額が増加した。	・定置網漁獲物の付加価値向上 ・定置網経営体の収入の安定化	◆高鮮度処理魚の安定生産と販路確保 〔室戸市定置漁業振興協議会〕 ◆漁業者による簡易な自家加工品の製造販売 〔中芸定置網漁業振興協議会〕 ◆高鮮度を売りにした定置網漁獲物の販売促進 〔中芸定置網漁業振興協議会〕 ◆安定的な漁業生産の確保 ◆生産性向上と販路拡大
		〔水産加工〕 ・(有)タカシン水産	・水産加工施設(室戸工場)を整備し、地域の定置網漁獲物等を中心とした加工事業に着手(H21) ・主力の「しめサバ」に加え、ギフト用漬物商品、メジカフレーク、キンメフィレ等をはじめとする定番商品を開発し、販売(H21~27) ◆地域の雇用(11名)に貢献していることに加え、加工生産技術の向上等に伴い安定品質及び安定生産が確保されており、取引先が順調に増加してきている。	・水産加工の促進による付加価値向上	

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
<p>高鮮度処理魚の安定生産と販路確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 高岡大教での生産・出荷体制の構築 高鮮度処理手法のマニュアル化による安定品質の確保 安定出荷のための小割生養の常設 マニュアルの活用による高岡以外の大数組合への高鮮度処理技術の普及、定着 <p>◆高知家の魚応援の店」制度等の活用による県外飲食店への販路確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知県漁協販売子会社と連携した販路確保 室戸市内の飲食店での取扱いの働きかけと、観光食材としてのPR 鮮魚卸業者等を通じた高知市内の飲食店向け販路の拡大 					高鮮度処理魚の販売金額 (H26:0千円)	20,000千円
<p>漁業者による簡易な自家加工品の製造販売</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡易加工品(イカ沖漬け等)の製造体制の確立 地域の直販所の商材やふるさと納税の返礼品としての定着 地域外への販路拡大による販売金額の増加 新たな自家加工品の開発 					簡易加工品の販売金額 (H26:0千円)	3,000千円
<p>高鮮度を売りにした定置網漁獲物の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知県漁協販売子会社と連携した県内外への販路拡大(高知家の魚応援の店制度の活用等) 地元直販所や高知市内における鮮魚直販イベント等の継続 						
<p>安定的な漁業生産の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁獲物全体の価格の底上げに向けた、船上での鮮度管理(氷の適正使用等)のマニュアル化と励行 漁獲量の増大に向けた、漁具、漁網の水中形状の調査や、調査結果を踏まえた改良 急潮被害の軽減に向けた学習会の開催や防災対策の実践 						
<p>生産性向上と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 定置網漁獲物等を原料とした定番商品の開発とブランディング 遠洋マグロ漁業者と連携したマグロ類の差別化商品の開発、販売 					加工品販売金額 (H22:0.47億円) (H26:0.8億円) ※(有)タカシン水産室戸工場	1.5億円

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
8 安芸市のシラス漁業者所得の向上 《安芸市》	平成25年に設立したシラス加工所によるシラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化と、シラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。	・安芸漁協 ・(株)安芸水産	アクションプランの取組開始:H21 ・企業、漁協、漁業者による加工処理能力向上に向けた協議(H23) ・シラス加工施設完成(H24) ・地元からの雇用創出(H24~) ◆漁業者・漁協・シラス加工業者との協議を実施した結果、漁業関係者はシラス加工処理能力の向上による水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を希望していることが確認できた。 ◆各種イベントでのPRや直販所での販売を通じて商品の認知度が高まった。	・漁業者、漁協、シラス加工業者による関係者の事業収入向上に向けた取組体制の構築 ・製造・出荷体制の強化、収益性の向上、販路拡大 ・シラス漁の鮮度保持体制の構築	◆シラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化 ◆商品力、販売力の強化と新たな販路確保 ◆シラスの鮮度向上
9 海洋深層水による地域産業の推進 《室戸市》	スジアオノリの陸上養殖事業のさらなる発展と、海洋深層水を利用した商品のブランド化をすすめることにより、地域産業の推進を図る。	・室戸市 ・深層水関連事業者	アクションプランの取組開始:H21 ・高知県漁協高岡支所(H27から室戸市が三島食品(株)に指定管理)がスジアオノリの小袋商品を「まるごと高知」や各種イベントなどで販売(H22~23) ◆生産性の向上や、新たな販売先を確保するなどにより、H21から収支が黒字化し、大幅な経営改善が図られた。	・スジアオノリの高品質化 ・新規参入者による養殖事業の展開 ・養殖事業の採算性の向上 ・深層水商品のPR ・企業・研究機関等との連携	◆スジアオノリ養殖事業のさらなる発展 ◆深層水商品のブランド化による販売力の強化 ◆海洋深層水を利用した海藻等養殖の研究開発
10 キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大 《室戸市》	新たに整備された加工施設を活用し、地域産品を使った商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、地産地消・外商の拡大と生産者の所得向上を図る。	・室戸市 ・協同キラメッセ室戸(有)	アクションプランの取組開始:H25 ・基本構想・基本計画の策定(H25) ◆加工施設の整備及び駐車場の造成、トイレの改修(H26~27) ◆加工施設の整備及び駐車場の造成、トイレの改修により、道の駅キラメッセ室戸の機能が一体的に強化された。また、加工施設の整備に合わせて、新たな加工品の開発等、茶場者の増加や満足度の向上に向けた取組が進んでいる。	・出荷作業スペースの確保 ・夏場の生鮮品不足 ・農産物出荷者の高齢化に伴う商品量の低下	◆施設整備 ◆農業の6次産業化の推進 ◆販路拡大と集荷体制の整備 ◆県外の道の駅等との連携

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
シラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化					→	水揚げ金額 (H26.1月~12月: 201,740千円)	210,000千円
処理能力の向上に対応した漁業体制の強化(関係者間の協議)					→	シラス漁獲量 (H26.1月~12月:393t)	420t
商品力、販売力の強化と新たな販路確保					→		
製造・出荷体制の強化、販路拡大					→		
シラスの鮮度向上					→		
◆鮮度調査 ◆鮮度保持機器の導入に向けた検討					→		
鮮度保持機器の導入					→		
スジアオノリ養殖事業のさらなる発展					→	スジアオノリ生産量 (高岡漁港) (H26:2.4t)	3t
既存事業の高品質化と生産量拡大に向けた検討					→		
新規展開に向けた検討					→		
生産・加工体制の確立					→		
事業展開					→		
深層水商品のブランド化による販売力の強化					→		
商品PR及び販促活動					→		
海洋深層水を利用した海藻等養殖の研究開発					→		
新たな海藻等の陸上養殖技術の確立					→		
生産体制のモデル作りと実用化					→		
施設整備					→	売上額 (H26:308,334千円)	370,000千円
全体構想の協議					→	来場者数 (H23:244,968人) (H26:230,887人)	260,000人
施設整備の検討					→		
検討による整備					→		
農業の6次産業化の推進					→		
法人による農業経営に向けた方向性の確認					→		
組織・人員体制の検討					→		
生産品目の検討					→		
農地の選定・準備					→		
加工品の開発・試作					→		
販路拡大と集荷体制の整備					→		
販路拡大					→		
持続可能な集荷システムの検討					→		
集荷の試行・実施					→		
県外の道の駅等との連携					→		
連携先の検討					→		
連携内容の検討・実施					→		

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
15 道の駅「田野駅」の機能強化に向けた取組 《田野町》	田野駅屋の集客力を最大限に活用し、地域の特産品の直販機能や観光情報の発信機能を強化するとともに、地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。 さらに、地域の産業振興における今後の田野駅屋のあり方について、施設整備等も含めた検討を行い、更なる地域の活性化をめざす。	・田野町 道の駅指定管理者 加工施設指定管理者 生産者組織 地域団体	アクションプランの取組開始：H21 【直販・飲食】 ・直販コーナーのレジ更新に伴うPOSシステム導入(H26) ◆国道沿い、ごめんなはり線田野駅の敷地内という地の利を生かし、20万人超の入込数と2億円超の売上高を安定的に保っている。 【情報発信】 ・田野駅屋拡張(74㎡増)(H23.3月) ・情報発信コーナーの整備 ◆中芸以東の観光情報発信の拠点として、観光客に情報提供が可能となった。 ・地域イベントへの参加や独自イベント開催(H21～) ◆田野町や地場産品のPRに貢献している。 【加工品開発・販売】 ・10品目の加工品を開発・試作したが、販売継続には至らなかった(H21、H22) ・酒粕スイーツ「蔵乃風」「蔵人の菓」等の開発、販売開始(H22～23) ・塩シャベット「塩姫」等、生菓のお菓子「爪の垢」の開発、販売開始(H24～25) ◆酒粕スイーツに関しては、数種類の商品を開発することができた。その後、新しい商品開発も行い、商品構成を充実させることができた。 ◆酒粕以外の商品についても開発に取り組み、数種類の商品が販売となった。 【交流人口の拡大】 ・体験活動による交流事業の受入、主催(H22～) ◆大野地区では、H22から大野倶楽部が体験交流事業の受入、実施に取り組みしており、なかでもごめんなはり線ウォーキングイベントの受入は定着し、毎年多くの参加者が地区を訪れるなど、交流人口の拡大に一定の成果が見られる。	・直販、飲食機能の強化 ・情報発信機能の強化 ・地場産品を活用した魅力ある特産品(加工品)の開発と販売体制の強化 ・機能強化のための施設整備に向けた検討及び調整	◆機能強化・小さな拠点化のための施設整備等 ◆直販・飲食機能の強化 ◆情報発信機能の強化・交流人口の拡大 ◆加工品の開発・販売の強化
16 地場産品直販所「かっぱ市」による地域活性化 《芸西村》	地場産品直販所「かっぱ市」において、安定供給の仕組みを作るとともに、芸西村に開所する集落活動センターと連携し、新商品開発や販路開拓等の外商活動に取り組むことにより、地域経済の活性化につなげる。	・芸西村 ・(有)かっぱ市 ・生産者グループ	アクションプランの取組開始：H22 ・H23.10月に産業振興総合補助金を活用しリニューアルオープン(H23) ・店内調理場での弁当等加工品の販売開始(H24.10月～) ・産振アドバイザーの助言による既存商品及び売り場の改善(H25) ・新商品「黒みつ」の販売と、黒みつを使用したかき氷の販売開始(H26) ・店内にイートインコーナー設置(H26) ・東京のアンテナショップ視察研修(H26) ・集荷システムの構築についての検討開始(H27) ・野菜ソムリエ取得講習受講(H27) ◆積極的な研修への参加や活動計画の作成によりサービス向上が図られ、売上増加につながった。	・商品集荷システムの構築による商品不足の解消 ・新商品の開発 ・集落活動センターとの連携	◆安定供給の仕組みづくり ◆新商品の企画開発及び集落活動センターと連携した外商活動 ◆地域観光情報の発信 ◆体験メニューの開発・実施

第3期計画				H32以降	指標及び目標		
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)	
機能強化・小さな拠点化のための施設整備等 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px;"> 今後のあり方検討 基本計画の策定 関係者間の協議 </div>				実施計画の策定		具体的な準備・実施	
直販・飲食機能の強化				課題の洗い出しと改善の取組		年間売上高(1月～12月) (H26: 258,729千円)	
情報発信機能の強化・交流人口の拡大				人材育成(スキルアップ研修、先進地視察等)		年間入込数(1月～12月) (H26: 221千人)	
加工品の開発・販売の強化				顧客のニーズ把握とインターネット・ガイドマップ等を活用した情報発信			
安定供給の仕組みづくり				観光・宿泊施設との連携による情報の共有と誘客及び交流人口拡大のための取組			
新商品の企画開発及び集落活動センターと連携した外商活動				人材育成(OJT)による育成、先進地視察等)			
地域観光情報の発信				加工品開発・販売に向けた態勢づくりと人材育成			
体験メニューの開発・実施				素材の掘り起こし、生産者と連携した加工品づくり			
ホームぺージ等の整備				安定供給の仕組みづくり 集荷システムの検討・営業時間の検討、試験的実施 見直し・本格的実施開始		売上額 (H22: 87,000千円) (H26: 135,000千円)	
体験メニューの開発・実施				新商品の企画開発及び集落活動センターと連携した外商活動 検討・試作・テストマーケティング 商品化・販売開始		200,000千円	
体験メニューの実施				商談会や展示会への出席			
検証 磨き上げ				地域観光情報の発信 ホームページやfacebookでの情報発信・パンフレット設置コーナーの充実			
検証 磨き上げ				体験メニューの開発・実施 体験メニューの開発			
検証 磨き上げ				体験メニューの実施 体験メニューの実施			
検証 磨き上げ				検証 磨き上げ			

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
17 安芸地域の観光振興の推進 《安芸地域全域》	H27年度に開催された東部地域博覧会で培った安芸地域の観光のノウハウを引き継ぎ、同博覧会の成果を更に拡大させることにより、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて新たに設立した広域観光組織の基盤を整備し、体験プログラムの磨き上げ、民泊の推進、情報発信等を行うとともに、歴史と食、地域文化の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進する。	・(一社)高知県東部観光協議会 ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者	アクションプランの取組開始:H21 ・観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21~22) ・DVDの作成 500枚(H21) ・ランドオペレーター1名雇用(H22.6月~) ・安芸球場キャンプ誘致活動(H21~23) ・安芸球場改修基本設計(H23) ・エージェンツセールス(H25.1.10~11中四国、H25.2.5~6関西) ・教育旅行誘致用の広域パンフレット作成(H25) ・東部地域博覧会の「基本計画」(H25)、「実施計画」(H26)の策定 ・東部地域博覧会の推進に向けたイベント審査会、企画運営部会、企画運営コアメンバー会、広報誘客部会、受入おもてなし部会の設置及び開催(H26) ・広域観光アドバイザー研修:13回(H26) ・東部博覧地研修:3回(H27) ・東部地域博覧会実施計画に基づく広報PR及びセールス活動(H26~H27) ・素材集を活用した果外エージェンツやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつながった。 また、東部地域博覧会(H27.4.28~12.23)の開催により、新たなイベントや体験プログラム等の作成、観光素材の磨き上げが行われた。さらに、東部地域博覧会の広報PR、セールス活動により、東部地域の観光素材が広く認知された。 しかし、東部地域全体への集客や経済効果には十分つながっていない。	・東部博覧会の成果の継続 ・広域観光組織の基盤整備及びミッションの明確化 ・東部地域内の行政や住民との連携強化 ・戦略的な商品造成 ・教育旅行に向けた民泊及び体験メニューの充実と人材育成 ・観光協会等の機能強化と広域観光組織との連携 ・戦略的な広報・PR活動の展開 ・観光クラスターの整備に向けた観光資源の組み合わせによる周遊観光の商品化や観光拠点等の磨き上げ ・教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施	◆策定した広域観光組織の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施 ◆観光協会等の機能強化と広域観光組織との連携 ◆戦略的な広報・PR活動の展開 ◆観光クラスターの整備に向けた観光資源の組み合わせによる周遊観光の商品化や観光拠点等の磨き上げ ◆教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施
18 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大 《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》	森林鉄道遺産(産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等)を中芸地区の新しい地域資源(地域遺産)ととらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	・奈半利町 ・田野町 ・安田町 ・北川村 ・馬路村 ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	アクションプランの取組開始:H21 ・旅行会社等によるツアーの催行(H22~) ・案内看板、遊歩道、駐車場の設置(H21~23) ・観光用ビデオの作成(H22) ・開通100周年事業の実施(H23~H24) ・ガイドの育成27名(H21~23) ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の設置(H25) ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会の自主的な活動の充実(H25) ・東部博覧会イベントとして魚梁瀬森林鉄道ジオラマ展及びアート&ライブの実施(H27) ◆魚梁瀬森林鉄道に係る様々なイベントや研究活動等がなされており、林鉄ガイドも中芸地域の体験型観光の一つとして定着している。	・高知家まご東部博覧会の成果を活かした更なる情報発信 ・5カ町村の整備・活用に向けた推進体制、仕組みづくり	◆遺産の活用と普及啓発活動 ◆保存活用計画策定後の整備、活用に向けた組織体制及び活用策の検討

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
策定した広域観光組織の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施					国内主要施設訪問者数(国内観光施設、体験プログラム、直販施設及びイベント集客数)(1月~12月) (H27:2,401,821人)	2,806,000人
旅行業の取得						
マーケティング調査及び分析の実施並びに調査結果に基づく観光戦略づくり					国内宿泊者数(1月~12月) (H27:138,229人)	150,000人
観光協会等の機能強化と広域観光組織との連携						
観光協会等の機能強化						
戦略的な広報・PR活動の展開						
東部地域のホームページ作成						
旅行エージェンツ、マスコミ等への戦略的な広報活動の展開及びホームページ、パンフレット等による観光情報の発信強化						
観光クラスターの整備に向けた観光資源の組み合わせによる周遊観光の商品化や観光拠点等の磨き上げ						
観光拠点等の磨き上げ <室戸・東洋エリア>室戸ジオパーク、生見・白浜海岸・吉良川町並みなど <中芸エリア>モネの庭・魚梁瀬森林鉄道遺産、中園橋太郎館、奈半利海浜センター、安田まちなみ交流館・和、唐浜食わず貝、塩づくり体験ハウス、藤村製紙など						
周遊観光の商品化や体験プログラムの磨き上げ						
教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施						
教育旅行の受入体制の強化による誘客の推進						
地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備						
民泊の推進、人材の養成、インバウンド対策など受入体制の整備						
遺産の活用と普及啓発活動					ツアー等による林鉄ガイド実績 (H26:846人)	1,500人
魚梁瀬森林鉄道ジオラマを活用した拠点づくりの検討						
拠点施設整備					拠点施設年間来館者数 (H26:0人)	1,000人
魚梁瀬森林鉄道ジオラマを活用した交流人口の拡大に向けた取組						
遺構見学ツアー等の実施と森林鉄道のネットワークを活用した普及・啓発活動						
大学連携事業を契機とした全国に向けた情報発信の取組						
保存活用計画策定後の整備、活用に向けた組織体制及び活用策の検討						
計画に基づく施設整備等、保存と活用を支える仕組みづくり						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
19 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興 【室戸市】	世界ジオパークに認証された室戸ジオサイトにおける受入体制の整備や旅行商品開発に取り組み交流人口の拡大を図る。	・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会	アクションプランの取組開始：H21 ・看板や遊歩道、駐車場などの環境整備（H21～27） ・ガイド養成講座等の実施（H21～27） ・世界ジオパーク認証（H23） ・日本ジオパーク全国大会の開催（H24） ・室戸世界ジオパークセンターの整備（H25～26） ・室戸世界ジオパークセンターオープン（H27） ・世界ジオパーク再認定（H27） ◆日本ジオパーク全国大会（参加者：約2,200人）を開催し、宿泊・食事利用等の経済効果や地域住民との連携が図られるとともに、室戸ジオパークの理解が促進された。 また、ジオパークの拠点となる「室戸世界ジオパークセンター」の整備により、受入体制が強化された。	・受入体制の強化 ・ジオパークセンターの整備 ・ジオサイトの見直し	◆ガイド育成 ◆ジオツアー・体験プログラムの推進 ◆情報発信、国際交流 ◆ジオパークセンターの整備 ◆サイト整備
20 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大 【室戸市】	室戸岬漁港（新港）の「海の駅とろむ」を核として、マリッジや体験プログラムの充実による交流人口の拡大を図る。	・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸黒潮協同組合 ・（一社）うみ路 ・室戸市	アクションプランの取組開始：H21 ・施設・設備等（ウエットスーツ、浮き桟橋、倉庫、屋外看板）の充実（H21～23） ・広告宣伝の強化（H21～23） ・体験プログラムの見直し（H22～23） ・陸上施設の建築及び陸上プール（直径10m、水深5m）の整備（H24） ・補助プールの整備（H25） ◆高級プログラムのドルフィンスイムの参加者が大幅に増加した。（H20：1,204人からH26：1,484人） また、施設や設備の充実で、安心・安全にふれあい体験が利用できるようになった。さらに、物販・体験スペースも確保され、来場者の満足度の向上、事業収入の増加に向けた土台を築いた。	・より多くの来客を回すための広報・営業の検討 ・とろむ内の全施設と連携した集客 ・ダイビング事業展開のための事業推進体制の整備	◆室戸ドルフィンセンターの広報・営業力強化 ◆室戸黒潮協同組合（ちばうま八、くじらはま）の機能強化 ◆「貝類等収穫体験」の施設整備 ◆ダイビング事業展開に向けた施設整備等

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値（H31）
ガイド育成					▶	
ガイド研修（登録ガイド数の増加・外国語対応ガイドの育成）						
ジオツアー・体験プログラムの推進					▶	
既存ジオツアー・体験プログラムのブラッシュアップ						
ジオツアー・体験プログラムの開発・実施						
ジオパークセンターを発着地としたジオツアーの開発						
情報発信、国際交流					▶	
日本ジオパーク再審査					世界ジオパーク再審査	
全国大会及び国際会議でのPR・イベントの開催						
主要パンフレット等の更新・多言語化						
ジオパークセンターの整備					▶	
遊休地の利活用検討・整備						
体育館・プールの利活用検討					体育館・プールの整備	
展示内容のリニューアル						
サイト整備					▶	
既存ジオサイトの見直し・新規ジオサイトの検討						
ジオサイトの再整備						
室戸ドルフィンセンターの広報・営業力強化					▶	
体制強化と人材育成					とろむ内全施設が連携した情報発信	
新規プログラムの開発					オリジナルグッズの開発	
施設の磨き上げ						
室戸黒潮協同組合（ちばうま八、くじらはま）の機能強化					▶	
教育旅行の受入						
魅力ある店舗づくりと広報・宣伝活動						
「貝類等収穫体験」の施設整備					▶	
施設整備に向けた検討					施設整備	
規模拡大に向けた検討						
体験プログラムの実施と広報・宣伝活動						
ダイビング事業展開に向けた施設整備等					▶	
施設整備の検討					施設整備	
ダイビング事業実施						
漁業関係者との調整					テナント募集・広報	
運営体制の検討					ダイビングショップへの情報発信	
ジオパークガイド利用者数（H26：7,869人）					10,000人	
室戸世界ジオパークセンター入館者数（H26：0人）					70,000人	
室戸ドルフィンセンター来場者数（H22：22,181人）（H26：24,431人）					31,000人	

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進 《安芸市》	既存の観光資源の磨き上げや、自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの作成。地域食材を活用したメニューや商品の開発等により観光客の満足度の向上を図り、交流人口の拡大及び観光関連産業の活性化に繋げる。	・安芸市 ・安芸市観光協会 ・漁協 ・伊尾木あなご保存会 ・内原野陶芸館 ・JA土佐あき ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・那中ふるさと館 ・メリーガーデン ・はたやま夢楽 ・安芸「釜あげちりめん井」楽会	アクションプランの取組開始：H21 ・土佐龍馬であい博での、こころざし社中開催（H22入場者、113千人、目標100千人） ・H23.3月、安芸観光情報センターの設置 ・岩崎弥太郎像の移転（H26） ・那中ふるさと館の施設改修（H26） ・安芸観光情報センターの改修（H26） ・内原野陶芸館の改修（H26） ・安芸「釜あげちりめん井」楽会による、ちりめん井の市内外でのPR活動やちりめん井提供店舗拡大の取組（H22～） ◆弥太郎像の生家周辺への移転や那中ふるさと館の改修等が行われ、観光に関連した施設等の魅力が向上した。また、H27に行われた「じゃこサミット」（高知東海岸グルメまつり、おさかな祭り、安芸市産業祭と同時開催）には、2日間で延べ約3万人の来場があった。	体験プログラムの充実 ・市内での滞在時間の延長	◆岩崎弥太郎生家周辺の魅力向上（パワースポットとしての認知度向上） ◆新たな体験プログラムの作成 ◆既存体験プログラムのブラッシュアップ ◆地域食材を活用した商品づくり
22 東洋町における体験観光の推進 《東洋町》	サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行うことにより交流人口の拡大を図る。	・東洋町 ・地元マリンスポーツ関係事業者 ・東洋町観光振興協会	アクションプランの取組開始：H25 ・高知黒観光拠点整備事業費補助金を活用し、白浜キャンプ場炊事場を整備。（H26） ・地域おこし協力隊（観光）1名着任（H26） ◆整備対象施設の現況調査により、課題が明確化され、今後の取組の方針決定につながった。	・地域資源を活かした体験プログラムの開発 ・地元事業者（サーフショップ等）との協調 ・受入施設の整備	◆海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発 ◆東洋町観光振興協会の体制強化 ◆サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値（H31）
<p>岩崎弥太郎生家周辺の魅力向上（パワースポットとしての認知度向上）</p> <p>パワースポットとしての認知度向上に向けた検討</p> <p>生家周辺の整備（聖神社門扉、案内板等）</p>					市内年間観光客数（H26：196,895人）	300,000人
<p>新たな体験プログラムの作成</p> <p>・シラス漁見学等の新たな体験プログラムの作成（体験プログラムについて漁業関係者等との体制構築） ・モニターツアーの実施</p>					市内年間宿泊者数（H22～26平均値：22,721人）	25,000人
<p>既存体験プログラムのブラッシュアップ</p> <p>既存体験プログラムのブラッシュアップ</p>					ちりめん井販売食数（H26：40,846食）	45,000食
<p>地域食材を活用した商品づくり</p> <p>・ナス・ユズ・土佐ジロー・シラス・マンゴーなどの地域食材を活用したメニューや商品の開発 ・メニューのPR活動（釜あげちりめん井等）</p>						
<p>海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発</p> <p>海の駅の観光案内窓口の強化</p> <p>農林漁家民泊の推進</p>					体験者数（H27：0人）	5,000人
<p>東洋町観光振興協会の体制強化</p> <p>法人化と事務局体制強化</p> <p>人材育成</p>						
<p>地域の観光情報発信</p>						
<p>サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化</p> <p>アンケート調査</p> <p>整備内容の検討</p> <p>施設と備品の整備</p>						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
23 藤村製絲を活用した観光振興 《奈半利町》	藤村製絲記念館を活用した観光振興に取り組むことにより、交流人口の拡大を図る。	藤村製糸(株) 奈半利町 なはり観光文化協会	アクションプランの取組開始:H26年度 ・高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、観光拠点施設となる藤村製絲記念館を建設(H26)	・藤村製絲記念館の活用拡大 ・関係機関との連携 ・広報等の強化	◆記念館の活用拡大
24 北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大 《北川村》	北川村温泉、北川村「モノの庭」マルモットン及び中岡慎太郎関連施設の北川村観光3施設で実施するイベントの開催に関する広告宣伝や営業活動の強化等に取り組むことにより、集客力を高め、交流人口の拡大を図る。	北川村 (株)きたがわジャルダン 北川村観光協会 中岡慎太郎先生 顕彰会	【北川村「モノの庭」マルモットン】 アクションプランの取組開始:H23年度 ・旧ワイナリーを多目的ホールへ改修(H22) ・TVや専門誌等様々な広告媒体を用いたPR(H22~23) ・経営コンサルタントのアドバイスを受けたコスト削減への取組(H23~) ・庭園整備(H22、H23) ・新支配人の着任(H25) ・接客アドバイザーによる接客マナー研修の実施(H25~) ◆入園者数(決算期の毎年2月から翌年1月までの年間入園者数) H21.2~H22.1 60,040人 H22.2~H23.1 53,369人 H23.2~H24.1 59,101人 H24.2~H25.1 55,288人 H25.2~H26.1 56,281人 H26.2~H27.1 54,115人 H27.2~H28.1 66,533人 【北川村温泉】 アクションプランの取組開始:H26年度 ・北川村温泉リニューアル基本計画策定(H25) ・基本設計及び実施設計(H26) ・北川村温泉改修工事のため閉館(H27.8月~)	・東部博終了を踏まえた誘客対策の強化 ・県外での認知度の向上 ・外国人観光客の受入態勢の強化 ・3施設の連携強化	◆高知県内を中心に日帰り可能地域を対象とした広告宣伝と営業活動 ◆3施設の連携強化、各施設の磨き上げ ◆観光拠点としての温泉施設の整備 ◆県博覧会と連携した中岡慎太郎関連施設の集客の拡大

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
記念館の活用拡大					→	来館者数(1月~12月) (H26:0人)	1,500人
観光資源としての磨きあげ							
新たな広域観光組織等と連携した誘客活動の強化							
町内ガイド組織との連携							
町並みガイド等での活用拡大							
観光パンフレットの作成やホームページ等による情報発信の強化							
高知県内を中心に日帰り可能地域を対象とした広告宣伝と営業活動					→	各施設入園(館)者合計 計数 (H26:80,983人) ※内訳 モノの庭 53,174人 (H26.4~H27.3) 北川村温泉 21,682人 中岡慎太郎館 6,127人	100,000人 ※内訳 モノの庭 65,000人 北川村温泉 28,000人 中岡慎太郎館 7,000人
マスコミへの情報提供、タウン誌やパンフレット、ロコミ等を使った広告営業活動							
各施設イベントの充実や3施設での連携イベントの企画、開催							
3施設の連携強化、各施設の磨き上げ					→		
観光クラスター整備による3施設連携強化							
外国人観光客対応等各施設の課題に向けた取組(wi-fi整備、多言語看板の整備)							
観光拠点としての温泉施設の整備					→		
温泉施設の整備							
観光拠点施設としての集客の取組							
県博覧会と連携した中岡慎太郎関連施設の集客の拡大					→		
年2~3回の企画展の開催、企画展に付随した講演会の開催							
博覧会との連携(サテライト会場)							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
25 旧椎名小学校を活用した地域振興 【室戸市】	旧椎名小学校の改修にあわせてミニ水族館、標本などの模型の展示、魚さばき体験スペースなどを整備するとともに、住民主体の活動を促進し、地域の課題解決や交流人口の拡大を図るため集落活動センター設置に向けて取り組む。	・室戸市 ・地域住民団体(椎名常会) ・椎名大敷組合	アクションプランの取組開始:H27 ・椎名小学校活用検討委員会(3回) ・地元説明会(H27.9.10)	・施設の利活用及び運営体制の検討 ・ウミガメ協議会や椎名大敷組合との連携 ・住民の組織づくり ・外部人材の活用	◆施設整備 ◆集落活動センターの設置 ◆情報発信
26 集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり 【安芸市】	安芸市東川地区の資源を活用した加工品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取組を通じて、持続可能な集落づくりを目指す。	・東川地域おこし協議会 ・かまん企画	アクションプランの取組開始:H26 ・集落活動センター「かまん東川」の開設(H25.9月) ・地域おこし協力隊による地域資源を活用した商品開発(紅茶やはちみつ等)や東京等での商品販売(H26) ・東川若いもんグループによるモニターツアー等イベントの企画、運営(H26~H27) ・東川ふれあい市の開催(H26~) ・HPの立ち上げ(H26) ・フェイスブックでの情報発信(H26~) ・入河内集落内の空き家調査(H26) ◆地域おこし協力隊により、地域資源を活用した新たな商品が出来た。また、HPやフェイスブックでの情報発信、新たな交流イベントの実施等により、地域外の方に関心を持ってもらえる機会が増えた。	・活動を収入につなげていく仕組みづくり ・集落活動センターの体制強化 ・地域資源を活用した加工品や農産物の販路の拡大 ・地域おこし協力隊への定住支援 ・移住促進に向けた住居の確保 ・交流イベントの内容充実と参加者の確保	◆地域資源を活用した新商品の開発 ◆農産物等の販路拡大 ◆交流人口の拡大 ◆移住促進への取組

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
施設整備 施設改修 管理運営体制の検討						
集落活動センターの設置 住民の組織づくり 外部人材の活用	事業内容の検討	事業活動の展開				
情報発信 PR方法の検討		広報・PRの実施				
地域資源を活用した新商品の開発	商品開発(新商品、ギフトセット等)				入河内大根生産量(H26:3,000本)	5,000本
	販路拡大(ネット販売)				交流イベント参加者数(H26:350人)	450人
	販売体制の整備、東川のブランド作り					
農産物等の販路拡大 入河内大根の栽培方法確立						
	入河内大根生産拡大、販路拡大、加工品の検討					
交流人口の拡大	交流イベントのブラッシュアップ、参加者との繋がりを継続できる取組みの検討					
	憩いの家の活用方法について検討・施設の改修等					
移住促進への取組 空き家を移住促進住宅へ改修	移住促進住宅の開設、移住者の受入					
	空き家活用に向けた取組(廻り起こし、交渉)					

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
27 奈半利ブランドの確立と販路の拡大 【奈半利町】	集落活動センターを拠点として、奈半利町内の生産物の増産及び新たな加工品の企画・開発を促進するとともに、ふるさと納税の取組や情報発信の強化による奈半利ブランドの確立を図ること、外商や交流人口を拡大し、地域のにぎわいを生み出す。	・奈半利町 ・集落活動センター運営主体	アクションプランの取組開始：H28		◆拠点整備(集落活動センターの設置) ◀地産地消・外商推進部門▶ ◆ふるさと納税制度を活用した地産外商の強化 ◀観光・移住部門▶ ◆情報の発信・交流人口の拡大 ◀社会福祉部門▶ ◆住民の集いの場、生きがいづくり ◀一次産業部門▶ ◆一次産業の振興
28 安田中山地区の活性化プロジェクト 【安田町】	地区住民が主体となり、安田ふるさと応援隊と協力して集落活動センターの運営を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。	・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部	アクションプランの取組開始：H24 【施設改修】 ・旧中山小学校(集落活動センター)の耐震診断(H25) ・旧中山小学校(集落活動センター)の改修工事(H26) 【運営主体の取組】 ・中山を元気にする会運営会開催(H24) ・中山を元気にする会運営会の月例化(H25～) ・集落活動センター「なかやま」の開設(H25.4月) ・山芋試験栽培の実施(H26～) ・町シェアオフィス事業との連携開始(H26～) ・なかやま山芋まつりの活性化(H27来場者約1,400人、前年比約1.2倍) 【高知大学との連携】 ・高知大学・安田町連携事業協議会設置(H24) 【外部人材の導入】 ・安田町ふるさと応援隊(地域おこし協力隊)1名採用(H25) ・集落調査員2名の採用(H25) ・安田町ふるさと応援隊(集落支援員)2名採用(H26) ・安田町ふるさと応援隊(地域おこし協力隊)2名採用(H27) ・ふるさと応援隊による運営支援の継続 ◆ふるさと応援隊の活動や大学との連携を通して地域住民の集落活性化への取組に対する参加意識が醸成されつつある。 また、地域の拠点が整備されたことにより、住民の集う機会も増加するなど集落活動センターを中心とした新たな動きが生まれてきた。	・集落活動センターの円滑な運営の継続、経済的自立に向けた仕組みづくり ・旧中山小中学校未改修部分の活用策の検討	◆旧中山小中学校を活用した多機能総合交流拠点施設の整備 ◆集落活動センターの取組の充実 ◆経済的自立に向けた取組

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
拠点整備(集落活動センターの設置)						
仕組みづくり・活動の検討					活動の展開と見直し改善	
ふるさと納税制度を活用した地産外商の強化						
ふるさと納税返礼品手配事業の受託						
奈半利ブランドの確立のための商品開発、外商機能の強化及び町産品のPR等						
情報の発信・交流人口の拡大						
奈半利町観光協会の役割						
移住の促進(相談窓口の設置、空き家バンク、モニターハウスの管理)						
住民の集いの場、生きがいづくり						
住民サロンの運営、高齢者のいきがいづくり活動等、社会福祉部門との連携策の検討						
一次産業の振興						
農業複合拠点に向けた協議会の場での検討					農機具の貸出・作業受委託等、検討を踏まえた取組	
旧中山小中学校を活用した多機能総合交流拠点施設の整備						
活用策の検討						
温泉本郷作業						
施設整備					施設を活用した地域のにぎわいづくり	
集落活動センターの取組の充実						
地域福祉活動・支え合いの推進(集いの場・健康づくり活動等の発展と継続)						
大学連携事業による地域の活性化						
耕作放棄地の解消に向けた取組や空き家情報の収集活動						
観光資源の発掘と磨き上げ(魚梁瀬森林鉄道や郷土出身の維新の志士等の資源活用)					観光資源の活用による県観光博覧会との連携	観光素材として定着化に向けた取組の継続
経済的自立に向けた取組						
自然薯栽培拡大						
規格外品の加工、販売、販路の開拓						
ふるさと応援隊による特産品開発、販売						
交流人口					(H26:3,329人)	3,600人
じねんレージ通過者					(H26:25,711人)	28,000人
集落活動センター利用者数					(H26.12月～H27.3月:689人)	3,200人

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
29 北川村中部地区の活性化プロジェクト 《北川村》	北川村中部地区の集落活動の展開と北川村温泉の改修を契機とした誘客の強化により、交流人口を拡大することで、中山間地域の振興を図る。	・北川村 ・北川村中部地区集落活動協議会 ・北川村観光協会	・アクションプランの取組開始：H26 ・地場産品を販売する温泉直販市の設置（H25～） ・休耕田の整地と花畑作り、イベントの開催（H26～） ・温泉レストランでの地元産品の活用（H26）	・地域住民の高齢化にもなう人手不足 ・交流人口増加 ・中部地区集落活動協議会事務局体制の強化 ・地域住民の団結力や参画意識の醸成	◆地域交流活動の展開 ◆北川村温泉との連携 ◆田舎暮らし体験、移住促進への取組
30 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト 《馬路村》	馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。	・馬路村 ・魚梁瀬地区住民団体（自治会）	アクションプランの取組開始：H26 ・魚梁瀬ふるさと応援隊2名の採用（H26） ・ふるさと応援隊による魚梁瀬バスポート、雛祭りなど交流人口の拡大に向けた活動の開始（H26） ◆ふるさと応援隊がイベントや誘客の仕組みづくりを企画し、交流人口の拡大に向けた取組を行っている。地域住民もイベントに参加し、取組への参加意識が醸成されつつある。	・住民組織の活性化 ・ふるさと応援隊による地域の巻き込み、住民との連携（リーダー・担い手の確保、育成） ・新たな外部人材の導入による体制の強化	◆外部人材の導入と住民組織づくり ◆観光資源の発掘と住民主体の活動による資源の磨き上げ ◆新産業創出に向けた調査研究 ◆魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値（H31）
<p>地域交流活動の展開</p> <p>休耕田を活用した花畑づくりや関連イベントの企画、開催</p> <p>地域おこし協力隊導入の検討</p> <p>地域おこし協力隊の活用</p> <p>新たな活動の掘り起こし</p> <p>北川村温泉との連携</p> <p>温泉施設のリニューアル工事</p> <p>温泉での直販コーナー運営等、温泉と地域との連携イベントの開催</p> <p>温泉再開後の活動の検討</p> <p>チラシ、ホームページ、マスコミ等を活用したイベントに係る情報発信</p> <p>田舎暮らし体験、移住促進への取組</p> <p>小島地区への移住お試し住宅整備の検討</p> <p>ホームページやマスコミ等を活用した移住お試し住宅のPR・活用</p> <p>田舎暮らし体験メニューづくり（ゆず収穫、鮎釣り、田舎寿司づくり、民泊、家庭菜園等）</p> <p>空家の掘り起こしと改修</p>					交流イベント参加者数（H27：400人）	700人
<p>外部人材の導入と住民組織づくり</p> <p>高知ふるさと応援隊の追加導入</p> <p>高知ふるさと応援隊による地域活性化、観光振興、生活支援等の活動</p> <p>応援隊と住民による地区活性化に向けた定期的な話し合い</p> <p>地域活性化に向けた地域住民、小中学校、村役場協働の組織づくりとその運営</p> <p>土佐MBA等を活用した、新たな人材の発掘と育成</p> <p>観光資源の発掘と住民主体の活動による資源の磨き上げ</p> <p>住民主体によるやな漁実施に向けた準備</p> <p>やな漁の継続開催による観光客の定着</p> <p>観光資源の磨き上げと新たな素材発掘</p> <p>新産業創出に向けた調査研究</p> <p>以前に行ったワークショップや調査等の整理</p> <p>資源の有効活用（資源のリストアップ）</p> <p>事業化検討（人材の確保・育成、視察研修）</p> <p>事業計画策定</p> <p>魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化</p> <p>山村留学の多様な受け入れ方法等の検討</p> <p>学校・地域と連携した山村留学の実施・移住促進</p>					丸山公園魚梁瀬森林鉄道利用者数（H24～26平均値：1,523人）	1,830人以上
					山村留学による魚梁瀬地区への転入（H26：4組）	5組（H28～H31累計）

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
31 集落活動センター「げいせい」(仮称)を拠点とした「小さくてももっと元気で輝くむら」づくり 《芸西村》	村内で活躍する住民が集落活動センターを中心に集結し、村産品の加工品づくりや磨き上げ、観光資源の発掘や活用等に取り組むことにより、村の強みを活かし、地域活性化を図る。	芸西村・集落活動センター運営主体	アクションプランの取組開始: H28		<ul style="list-style-type: none"> ◆地域情報発信 ◆観光協会機能 ◆移住・定住サポート ◆特産品づくりと外商活動 ◆生きがいづくりと生活支援

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
地域情報発信	→					
PR方法検討	PRの実施					
観光協会機能	→					
	村内外のイベントへの出展・イベントの企画運営					
移住・定住サポート	→					
空き家掘り起こし	移住相談会等への参加・情報発信					
特産品づくりと外商活動	→					
加工施設の検討	加工施設の建設・運営・特産品開発					
	外商活動					
生きがいづくりと生活支援	→					
調査・内容検討	活動の展開					